

原子力災害はあつてはならない」… 現時点で脱原発の判断は、時期尚早」

(西宮市長の本会議答弁)

7月1日、日本共産党の杉山議員が質問に立ち、福島原発事故や原子力発電について、市長の見解を問いました。

福島原発事故は収束するどころか、被害の拡大が続き、自主避難を含めると10万人以上の人々が、避難生活を余儀なくされています。

核エネルギーを取り出す際に生じる「死の灰」とよばれる放射性物質を完全に閉じ込める技術は未確立、また「死の灰」の塊である使用済み核燃料の処理方法も開発されていない、「未完・未熟」な技術であるというのが現在の到達です。最大



限の安全対策をとつても安全な原発はあり得ず、まして地震・津波大国の日本では原発と共存できません。

日本共産党は1950年代から一貫して国会の場でも問題を指摘してきましたが、杉山議員はこれらを議場で明らかにした上で、市長に『もう原発はダメ、やめなあかん』と率直に思わないか』と問いました。

それに対する答弁が右の見出しです。「原子力災害はあつてはならない」とする一方で、事故原因の検証等の推移を見守っているのが「現時点では脱原発といえない」とまつたの及び腰。情けない限りです。

宝塚、尼崎、篠山の3市長が、関電に対し「脱原発」を求めたことと対照的です。

市民アンケートの声、実る!

上甲2丁目の危険な溝に「柵」完成

「子どもが通る時も、いつもヒヤヒヤしています。どうか安心して通れるようにしてください」 — さきごろおこなった市民アンケートに、こんな声が寄せられていました。

現地は、上甲子園2丁目1番街区で、2号線ホンダプリモの南、聖天寺の東です。さっそく市と交渉し、このほど「柵」が完成しました。



(写真左) 大きな溝がそのままに…

(写真中) 5月30日、柵が完成

(写真右) 柵の完成を喜ぶ私